

研究主題

「児童生徒による学習評価の充実－自立活動の授業づくりを通して－」 (1年次／2年計画)

1 児童生徒の実態

今年度の道川分教室には、小学部1名、高等部5名の計6名が在籍している。独立行政法人国立病院機構あきた病院に入院している児童生徒を対象に訪問教育を行っている。

児童生徒は、脳性まひ等に起因する重度の肢体不自由と知的障害を有しており、日常生活全般において医療的ケアや生活支援を必要としているが、いろいろな思いをもち、周囲からの働き掛けに心を動かしている。しかしながら、その表出は微細で受け取る側の教師も読み取りに難しさを感じることが多い。

2 目指す児童生徒の姿（1年次）と研究の方向性

自分なりに周囲の状況が分かり働き掛けを受け止め、表情や発声、身体の動き等で達成感を味わうことが個々の満足感や次の学びへの意欲につながると考え、その姿を目指したいと考えた。児童生徒に何が身に付いたかを明確にしながら、児童生徒自身と教師とで次の学びや生活に生かすことのできる目標設定と振り返りの機会、学習評価の在り方を検討し、学習評価の充実に向けた実践を積み重ねる必要があると考える。

3 研究仮説

自立活動の個別学習又は小集団学習において、チームで検討し多角的な視点で実態把握をすることで児童生徒の目標の妥当性が高まり、授業改善を積み重ねることで児童生徒の学びの実感や達成感を高めることができるのではないかと。

4 内容と方法

(1) アセスメントチェックリストを活用した実態把握

- ・ 重度・重複障害児のアセスメントチェックリストー認知・コミュニケーションを中心にー ver. 5.0（広島県立福山特別支援学校）と自立活動の流れ図をアセスメントツールとして活用（5月、2月）し、年間目標、指導計画、指導内容を設定する。
- ・ 昨年度設定した中心的な課題を踏まえ、今年度の課題を整理して整合性を図る。

(2) チームごとの授業づくり検討会の実施（年9回）

- ・ 「ねらい」と「学びを実感し達成感を表す姿」を確認する。（9月）
- ・ 達成感を表す姿がどのように変容してきたのか分析を行う。（12月、1月）

(3) 学習評価記録用紙の作成と活用【抽出生徒における学習評価基準（4段階）の設定】

- ・ 「学びを実感し達成感を表す姿」を基に学習評価基準を設け、本時のねらいと手立ての有効性について分析し、授業改善に取り組む。（10月、11月）

(4) 映像及びエピソード記録等の活用による授業改善

- ・ 映像記録 → 動画で日々の指導を記録し、評価と改善点について話し合う。
- ・ エピソード記録 → 達成感を表す姿の表出や児童生徒のつぶやき、表情等から、生徒の思いを読み取り、考察する。

「道川分教室における児童生徒による学習評価」とは

児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことは難しい実態であるが、児童生徒が学びを実感し、達成感を表す姿を児童生徒自身の評価と捉えていく。

5 研究を進めるための具体的な取組

(1) 授業づくり検討会

- ・研究対象授業はグループ学習(抽出生徒：A)と個別学習(抽出生徒：E)の2事例で行い、2つのチームを編成して、チームごとに年9回の話し合いの場を設けた。
- ・アセスメントチェックリストや自立活動の流れ図を活用した実態把握を行い、映像及びエピソード記録、学習評価記録用紙の活用等により指導目標、指導内容、題材構成の検討、評価を行い授業改善を行った。
- ・児童生徒が主体的に活動するための分かりやすい状況づくりである4つの観点「言葉掛け」「姿勢づくり」「教材・教具の工夫」「授業展開」を視点にもちながら、授業づくりを進めた。
- ・校内授業研究会では、授業づくり検討会で積み上げた授業改善や変容及び学習評価(目指す個々の児童生徒の「学びを実感し達成感を表す姿」)の具体について協議し、外部専門家やチーム以外の教師等による評価を得て、より専門的、多角的に指導内容を検討して、さらに授業改善を進めた。

(2) 各授業研究会

- ・研究主題に沿った授業づくりや授業改善を進めるために取り組んだが、新型コロナウイルス感染防止のため、児童生徒及び職員は院内での行動制限があり、今年度はビデオによる授業参観とした。外部の専門家からの助言の機会が少ないため、前期の指導主事計画訪問での助言を各チームで分析し、事後の授業実践に反映させた。後期は要請訪問や校内授業研究会での授業実践に努め、そこで出された改善策を、さらに授業づくり検討会での話し合いを重ね、評価と改善点について検討した。

(3) クォーター研修会及び教材・教具研修会

- ・校内の人材を活用した自立活動についての研修(15分程度を8回)や自作の教材・教具づくり(長期休業中の拡大版を1回)を実施し、専門性の向上や日々の授業改善に努めた。
- ・秋田県立大学システム科学技術学部の高山正和准教授を講師に、教材・教具研究会(1/12)を開催した。

6 研究の実際

(1) アセスメントチェックリストを活用した実態把握

- ・重度・重複障害児のアセスメントチェックリストー認知・コミュニケーションを中心にーver. 5.0(広島県立福山特別支援学校)と自立活動の流れ図をアセスメントツールとして活用した。
- ・実態を捉えるために、アセスメントチェックリストから課題整理シートをチームで作成し、さらに昨年度から設定していた自立活動の流れ図における中心課題との整合性を考え合わせて、年間目標、指導計画、指導内容を設定した。

(2) チームごとの授業づくり検討会の実施

- 抽出生徒について、日々の記録や映像記録を活用しながら学期毎や授業研究会等の機会を捉えて評価と改善点、及び個別のねらいや手立ての妥当性について話し合った。また「学びを実感し、達成感を表す姿」を確認し、それを基に学習評価記録用紙を作成した。
- 授業研究会での助言や改善策等を受け、事後の授業改善から見てきた変容について話し合いを行った。

(3) 学習評価記録用紙の作成と活用【抽出生徒における学習評価基準（４段階）の設定】（図１）

学習評価記録用紙には、略案と本時のねらいにおける評価基準（４段階）、自由記述による生徒の様子、改善点等を一目で見て分かる様式にした。また、様式については、合同学習や個別学習のどちらでも対応し活用しやすいようにチームで検討した。略案や生徒の様子があることで、振り返りをしたときに活用がしやすかった。

また、本時のねらいに対する評価基準の妥当性の検討を行い、映像及びエピソード記録を併用しながら見直しを図った。

教師の発言やそれに対する生徒の反応、やりとり等気になることを記入

題材名／ 本時のねらい	【冬をしよう～冬の食べ物、書き初め～】	日時／場所／他
10:45	流れ 1 あいさつ 2 「おひさまのたね」を歌う 3 「もち」に触れる 4 【通信開始】書き初めのお題決定～ルーレットを回す～	1月15日（金） 1階学習室、2多
10:50	指導上の留意点 ・各病棟ごとに進める。挨拶したい児童生徒にお願いする。 ・他病棟の友達も同じ活動をしていることを伝え、各階毎に歌を歌う。 ・名前や色を言った児童生徒がいたら、拍手をして、全員で称賛する。 ・四字熟語（一人一文字ずつ）と、今年の児童生徒個人のテーマで書き初めをすることを伝える。 ・ルーレットを回したら、次の友達を指名する。 ・見通しがもてるように、筆を提示して次の予定を伝える。	必要な物 CD、CDデッキ、ギター もち（加熱済み）、ビニール袋、タオル iPad一式、ルーレット2台
11:25	5 あいさつ ・挨拶したい児童生徒にお願いする。	

氏名：A	◎できた	○概ねできた	△少しできた	×できなかった
児童生徒	◎ 感じた気持ちを言葉で表す。			
	○ 手掛かりをもとに、反応を示す。			
	△ 教師の促しで、小さくうなずく等反応を示す。			
	× 動きがない。または、反応がない。			

氏名：B	◎できた	○概ねできた	△少しできた	×できなかった
児童生徒	◎ 温かさや柔らかさを感じ、自分から手や口を動かして気持ちを表す。			
	○ 少し待つと、手や口を動かす。			
	△ 何度か促すと、手や口を動かす。			
	× 眠っている。または、動きがない。			

自由記述～生徒の様子など	考察及び改善点

【備考】には、評価に関する背景や補足説明を記入

〈図１〉学習評価記録用紙

高等部３年（E）「感じてみよう ～ゆらゆら きらきら～」

(4) 映像記録及びエピソード記録の蓄積（図２）

教師側の評価や生徒の反応を確認するために映像でこまめに記録するように心掛け、日常的に客観的評価として活用した。

その際、撮影の大まかな流れや撮影のアンクル、注目したい場面等を撮影者に伝え、教師の支援と微細な児童生徒の表出とが分かるように、撮影の打ち合わせを行った。

また生徒の変容を捉えるために、毎回学習評価記録用紙に生徒の様子を記入し、それを基に変容が見られた時にエピソード記録として書き起こした。

【考察】はチームで多角的な視点から意見を出し合った。

背景		
病棟生活が長く、病棟内で学習することが多かった。高等部に入学してから、体調が安定するようになり、病棟外に出て学習する機会が増えた。今年度、病棟を出る時に「いってきます」「ただいま」と教師と一緒にあいさつをする病棟スタッフから「いってらっしゃい」「おかえり」とあいさつを返してもらえようになった。周囲からの働き掛けを感じて受け止める姿は見られたが、感じ取るまで時間がかかり、自分で発信（目や口、手を動かす等）した時には、声を掛けてくれた方は居なくなっていることが多く見られた。 担任は、周囲からの働き掛けを受けた時に、タイミング良く、楽しい、うれしい等の気持ちを表出することができたら、病棟内でのスタッフとの関わりが今以上に広がると考えている。また、残り少ない学校生活の中で、言葉でのやりとりをたくさん聞き、フィードバックを受け、簡単な言葉の意味と自分の行動とが結びつくようになってほしいと願っている。これが、卒業後の療養生活にもつながっていくと考える。		
学びを実感し達成感を表す姿		
・「学びを実感し」→ 期待感をもつ姿 ・分かって取り組む姿 ・「達成感を表す」→ 活動中に快の気持ちを表情等で表す姿 ・活動終了後に笑顔に浸っている姿		
達成感を表す姿に関わるエピソード（教師の思いも記述）	心の動き	発言
きらきらタイムが終わり、「はい おしまい」と告げ、照明を付けた。力強く肘を曲げて、笑顔になる。 「楽しかったね」と言葉を掛けると 楽しかった うん最高！ ゆらゆら、きらきら むふふふふ 病棟に帰るためにエレベーターに乗ると この表情 →→→→→ この後、ベッドに移乗しても、ニコニコがとまらなかった。		
活動時間を十分にたどった時は、自分の思いを表情や、目、口、腕で表すことが多い。笑顔も多く、活動終了後も余韻を楽しむ姿も見られる。時間差で満足感を表すこともあるので、見逃さずに、気持ちを共有したい。		
考察		
○見通しや安心感につながる繰り返しの取組が、分かって取り組む姿につながる。（学びを実感し） ○スイッチで応える、自分で緊張を緩める、自分の思いを表す姿が見られたら称賛（即時評価）する。（達成感を表す姿につながる） ・きらきらタイムの前にも感じた気持ちを教えてねと伝え、教師と一緒に楽しみながら活動するようにした。表情などの動きを本人にフィードバックし、色々な気持ちを共有することで、本人の表現機会が増えることにつながるのではと考えている。		

〈図２〉エピソード記録

(5) 授業実践（各グループの実践）

【授業実践1】 小学部5年・高等部1年 自立活動（グループ学習「よつばタイム」）

＜抽出生徒Aの実態＞

- ・高等部1年女子。座位をとることは難しいが、車椅子に座って学習をしている。右ひじを数センチメートル上げてひもを引くことができる。
- ・自分の名前や場に応じた挨拶、簡単な質問等、2～3語文で話すことができる。
- ・友達への関心はまだ薄い。周囲の大人に対して自分の服装や家族の話題で話し掛けたり、人前で挨拶したりすることを好む。称賛されると達成感や意欲が高まる。
- ・聴覚優位のためタブレット画面への注目は難しいが、聞こえてくる音をとらえてタブレットの方向に顔を向けたり、相手からの簡単な問い掛けに応えたりする。

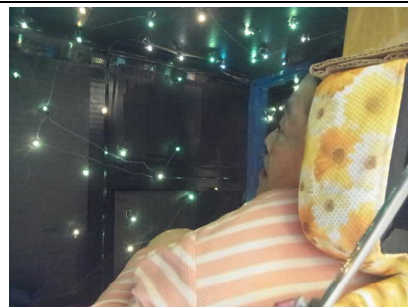
Aの中心課題（自立活動の流れ図より）

- ・右手や首を動かして様々な活動に積極的に取り組み、体力や身体機能を維持する。
- ・様々な体験を通して興味・関心の幅を広げ、思ったことを話したり感じた気持ちを表情や身体の動きで表したりする。

※今年度は感染防止のため、生徒はAとB、CとDの2名ずつに分かれ、離れた場所で学習を行った。

＜前期の実践＞実施時期6月～7月（週1時間、総時数7時間）

題材名	見て、触れて、表そう ～星めぐり～	
題材の目標	・友達や教師と一緒に活動を通して、仲間であることを感じたり、にぎやかな雰囲気を楽しんだりする。 ・音や光、感触等、諸感覚に働き掛けられることによって、外界の変化を受け止めたり、感じたことを表現したりする。	
個別のねらい	・にぎやかな雰囲気を感じ、楽しい気持ちを自分の言葉で表す。 ・ライトの光に注目し、感じた気持ちを話す。	
指導内容	（授業づくり検討会Ⅳより） [2か所をタブレットで中継] ・友達との挨拶 ・グループの歌を歌う ・感想発表 [中継せず同病棟の友達と活動] ・光のカーテンを見る、触れる ・七夕飾りの制作 【※ICT環境として1単位時間を通して繋ぐことは難しいため、中継は短時間とした。】	
ポイントとなる手立て、教師の役割		生徒の様子
○言葉による気持ちの表出を促す教師の言葉掛け ・「自分の気持ち」に気付き、考える意欲に繋がるよう、周囲の状況を伝えるAの言葉を肯定的かつ共感的に受け止め、教師が手掛かりを提示していく。		・「光っています」等、状況を伝える言葉は発する。感想を尋ねると教師に頼ってどう答えてよいか聞き返した。気持ちを表現する言葉はほとんど出なかった。
○捉えやすさに配慮した光教材 ・広い面積を見ることが苦手で目をそらしがちだったため、光のカーテンから光ボックスへ変更した。		・黒いボックス内に光を装飾した教材に変更し、じっくり鑑賞した。「見えました」「きれいだ」と感じた気持ちを伝えた。
○集団の楽しさを味わえるICTの活用 ・聴覚優位で画面に注目しようとする身体に力が入り疲れることから、画面を見ることを求めない。通信の相手側は手を振ってアピールして話す。		・手を振っている相手への気付きは確認できず、教師がゆっくり簡潔に話し、側にいる教師の補足説明と合わせてタブレットの相手と簡単なやり取りを楽しんだ。
＜◆課題と◇改善策＞（授業づくり検討会Ⅴより） ◆豊かな表現を促すためには友達と共有できる楽しさや喜びを味わうことができる題材や教材が必要。 ◇グループの全員が取り組むことができる「引っ張る活動」と既に慣れ親しんできた「お話」を題材のベースとする。 ◇個別の実態に配慮しつつ、離れた学習場所でも共感できるように共通教材を使用する。 ◇Aが自分で考えて気持ちを伝えられるよう、教師のヒントを段階的に設定し評価する。		



【光ボックスで鑑賞するA】

＜後期の実践＞実施時期10月～11月

（週1時間、総時数7時間）

題材名	見て、触れて、表そう ～やさい、くだもの大発見～								
題材の目標	・にぎやかな雰囲気を楽しんだり、仲間であることを感じたりする。 ・野菜や果物等に触れたり匂いを嗅いだりして、感じたことをことばや表情等で表す。								
個別のねらい	・「〇〇さんとやりたい」「〇〇さん頑張って」等、引っ張る場面で友達に向かって自発的に話し掛ける。								
指導内容	（授業づくり検討会Ⅵ） [タブレットで中継] ・友達との挨拶 ・グループの歌を歌う ・がんばり発表（実演） [中継せず同病棟の友達と活動] ・読み聞かせ「大きなかぶ」・野菜を引っ張る（一人→友達と） ・引っ張った野菜の感触や香りを確かめる。 【ICT環境として1単位時間を通して繋ぐことは難しいため、中継は短時間とした。】								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>ポイントとなる手立て、教師の役割</th><th>生徒の様子</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ○友達Bに関心を向ける活動の設定 ・「おおきなかぶ」の話になぞらえ、友達の協力なしには野菜を引っ張り切れない場面を設定し、Bを意識できる問い掛けをする。 </td><td> ・担任以外の教師が「Bさん、Aさんは誰と一緒に引っ張りたいたかな」などとさりげなくBの名前を入れてつぶやくことで、「Bさんと」と返答することが増えた。 </td></tr> <tr> <td> ○頑張りや達成感を実感できる4段階評価の設定 ・自分で気付いたり考えたりできるように、個別のねらいに対する4段階の評価基準とそれを達成させるための手立てを設定した。（学習評価記録用紙の活用） </td><td> ・その日のAの状態に応じて提示するヒントの量は増減したが、最終的に自分で考えたり選択したりして答えを出すことが増え、「私、考えました」と達成感を伝えることもあった。 </td></tr> <tr> <td> ○離れた友達を意識できるICTの活用 ・機器の関係で全部の時間は繋げないため、まとめの時間に代表1名が野菜を引き、声援を送る場面を設定する。 </td><td> ・声援は教師の補足説明なしでタブレットを通してAにダイレクトに伝わり、「私、がんばります」と言って、張り切って野菜を引っ張った。 </td></tr> </tbody> </table>		ポイントとなる手立て、教師の役割	生徒の様子	○友達Bに関心を向ける活動の設定 ・「おおきなかぶ」の話になぞらえ、友達の協力なしには野菜を引っ張り切れない場面を設定し、Bを意識できる問い掛けをする。	・担任以外の教師が「Bさん、Aさんは誰と一緒に引っ張りたいたかな」などとさりげなくBの名前を入れてつぶやくことで、「Bさんと」と返答することが増えた。	○頑張りや達成感を実感できる4段階評価の設定 ・自分で気付いたり考えたりできるように、個別のねらいに対する4段階の評価基準とそれを達成させるための手立てを設定した。（学習評価記録用紙の活用）	・その日のAの状態に応じて提示するヒントの量は増減したが、最終的に自分で考えたり選択したりして答えを出すことが増え、「私、考えました」と達成感を伝えることもあった。	○離れた友達を意識できるICTの活用 ・機器の関係で全部の時間は繋げないため、まとめの時間に代表1名が野菜を引き、声援を送る場面を設定する。	・声援は教師の補足説明なしでタブレットを通してAにダイレクトに伝わり、「私、がんばります」と言って、張り切って野菜を引っ張った。
ポイントとなる手立て、教師の役割	生徒の様子								
○友達Bに関心を向ける活動の設定 ・「おおきなかぶ」の話になぞらえ、友達の協力なしには野菜を引っ張り切れない場面を設定し、Bを意識できる問い掛けをする。	・担任以外の教師が「Bさん、Aさんは誰と一緒に引っ張りたいたかな」などとさりげなくBの名前を入れてつぶやくことで、「Bさんと」と返答することが増えた。								
○頑張りや達成感を実感できる4段階評価の設定 ・自分で気付いたり考えたりできるように、個別のねらいに対する4段階の評価基準とそれを達成させるための手立てを設定した。（学習評価記録用紙の活用）	・その日のAの状態に応じて提示するヒントの量は増減したが、最終的に自分で考えたり選択したりして答えを出すことが増え、「私、考えました」と達成感を伝えることもあった。								
○離れた友達を意識できるICTの活用 ・機器の関係で全部の時間は繋げないため、まとめの時間に代表1名が野菜を引き、声援を送る場面を設定する。	・声援は教師の補足説明なしでタブレットを通してAにダイレクトに伝わり、「私、がんばります」と言って、張り切って野菜を引っ張った。								
＜エピソード記録の考察から＞ ・今年度前半はBに対して一方的に言葉を掛けるだけだったが、Bの様子を気にしたり、手掛かりなしに名前を呼んだりすることが増えてきたので、一緒に活動する必然性を大事にする。 ・今回、教師の手掛かりを元に友達の名前を言い、活動に誘えたことを褒めると喜んだ。できる状況を整え、認められる経験を積んでいくことで教師に頼らず、積極的に発言する姿が期待できる。									
＜まとめ＞（授業研究協議及び授業づくり検討会Ⅷより）									
＜成果1＞「わかった」「できた」を引き出す4段階評価の活用 ・児童生徒の4段階の評価基準と手立てを話し合う過程で、実態の見直し、各基準を達成させるための手立ての明確化が図られ、有効に作用することが増えた。事後は、職員が共通の目線で評価し授業改善が図られ、Aの「わかった」「できた」につながった。 【野菜を引っ張るAとB】									
＜成果2＞離れても仲間を感じる工夫 ・ソーシャルディスタンスを求めた今年度は、タブレットを通したにぎやかな声援、二人で野菜を引っ張るときのひもの揺れなどで友達を感じ、一緒に活動する楽しさを味わうことができた。									
＜課題＞ねらいに迫るシンプルな授業構成 ・Aはもちろん他の児童生徒にとっても楽しく、達成感を感じることができる授業を検討した結果、活動内容が多くなりねらいの焦点化が難しかった。1単位時間の内容を精選し、題材の総時数を構造的に組み立ててねらいを達成できるように計画する必要がある。									



＜次年度に向けて＞

- ・周囲から認められ、称賛されると自信や意欲が高まるため、即時評価を大切に指導する。
- ・タブレットの音声と教師の補足説明で友達の様子は捉えることは難しかった。今後の感染症の状況を見据える必要はあるが、実際に集まることができるグループ編成を検討する必要がある。

【授業実践2】高等部3年 自立活動(個別学習)の指導

＜抽出生徒Eの実態＞

- ・高等部3年男子。てんかんの発作あり。気管カニューレ挿入。経管栄養。
- ・側わんがあり、同じ方向に姿勢が傾いている。関節拘縮があるが、首回りや肩などに触れると緊張がゆるみ肘が伸びて力が抜けてくる。
- ・身近な人の声を聞き分けることができ、話し掛けられたり名前を呼ばれたりすると口や腕を動かし、時には「あー」と声を出し応える。
- ・好きな歌やフレーズを聞くと音源の方に目や顔を向ける。笑顔になることもある。
- ・明るさ(明暗)を感じ取ることができ、光の学習をすると心地良さそうな表情になる。

Eの中心課題(自立活動の流れ図より)

- ・身体の緊張をゆるめたり体操やマッサージをしたりして心身をリラックスする。
- ・周囲からの働き掛けを受け止め、快の感情を表出する。

＜前期の実践＞実施時期5月～7月(週1時間 総時数10時間)

題材名	感じてみよう ～あったかふわふわ、ぺたぺたきらりん 2～	
題材の目標	・温かい泡の感触を味わったり、腕を動かして泡で色付けしたりする。 ・自分でスイッチを押し、ブラックライトを操作しながら光遊びをする。	
指導内容	(授業づくり検討会Ⅲ、Ⅳより) ・首や肩、手指、腕等のマッサージをする。 ・温かい泡に触る。 ・泡と蛍光絵の具を混ぜ色付けする。 ・光遊び(ブラックライト)をする。	
ポイントとなる手立て、教師の役割		生徒の様子
○期待感を高める言葉掛けと授業展開 ・始まりの歌や言葉掛け(「温かい」「ふわふわ」「ぺたぺた」「きらきら」)、授業の流れを固定し繰り返し学習することで、「感じてみよう」の学習への見通しと期待感をもてるようにする。		・教師が始まりの歌を歌い始めると「聞いたことがある」というような表情で顔をその方向に向けてじっと聞いていた。 ・授業の始まりに題材名をゆっくり言うと、一緒に口を動かしていた。
○心地よさや楽しさを感じる教材・教具 ・温かい泡を多めに準備する。感触を感じやすい左手を泡で包み、心地よさを感じる等の表情を引き出せるようにする。 ・泡の感触を楽しんだ後、蛍光絵の具を混ぜ台紙に色付けをする。色付けした台紙を掲示し光遊びにつなげる。		・温かい泡に触れていると表情が穏やかになった。「温かいね」「ふわふわだね」の言葉掛けには口を動かし応えていた。 ・「ぺたぺた」と言葉を掛けると微細ではあるが、自発的に腕の緊張を緩めていた。「ぺったん」と言葉を掛け教師が泡と絵の具が付いた手を台紙に押すと笑顔になった。
○自発的な動きをスイッチ操作に変換する工夫 ・自発的な動きとして見られる左腕の伸展と屈曲をスイッチのON操作につなげるようにする。 ・体調に合わせ、屈曲時の左腕の位置を見て、車椅子テーブルにワイヤースwitchをセットする。		・最初は偶然にスイッチに触れライトが点灯することもあったが、称賛されることで喜び、自分で腕を動かしてスイッチを入れた。 ・10時間計画の7時間目から、自分で点灯(switch ON)するようになった。
＜◆課題と◇改善策＞ (授業づくり検討会Ⅴより) ◆1単位時間の学習活動が多い。 ◇自発的な動きにつなげるため活動数を減らし、じっくり取り組む。 ◆色付けした台紙を光遊びで活用することをEは分かっていない。 ◇振り返りの時に、次時に掲示しそれで光遊びをすると伝える。 ◆ワイヤースwitchは、自分でONしたという感覚が分かりづらい。 ◇教材・教具から受け取る情報の分かりやすさ、単純な因果関係に気付けるように、握りスイッチでの活動に変更し積み重ねる。		



【ライトで光る蛍光絵の具の絵】

＜後期の実践＞実施時期10月～12月

（週 1 時間 総時数 8 時間）

題材名	感じてみよう　～ゆらゆら　きらきら～	
題材の 目標	・マッサージやボールスライダーの揺れを通して、自分から緊張を緩める。 ・ボールスライダーの揺れやライトの光を感じ、気持ちを表情や身体の動きで表す。	
指導 内容	(授業づくり検討会Ⅵより) ・首や肩、手指、腕等のマッサージ ・きらきらタイム (ディスコライト) ・ ゆらゆらタイム (ボールスライダー)	
ポイントとなる手立て、教師の役割		生徒の様子
○見通しと期待感を高める言葉掛けと場面設定 ・ 1 学期から継続してきた言葉掛けに加え、学習場所を固定 (2 階学習室) することで、何を学習するか分かるようにし、期待感を高める。		・ エレベーターに乗ると学習への期待感から笑顔を見せた。教師が「2 階の学習室に到着」と言葉を掛けると肘を曲げ、うれしそうに笑っていた。
○ 安心できる姿勢づくりとスライダーの揺らし方 ・ クッション等を効果的に使い安定した姿勢づくりをし、リラックスして楽しめるようにする。 ・ より楽しめるようにスライダーの動きや速さ、動かしたり止めたりするタイミングを工夫する。		・ 教師が「ゆるゆるソング」を歌うと自分から両上肢の緊張を緩めた。 ・ スライダーの動きを感じると目や口を動かしたり楽しそうに笑ったりした。「楽しいね」と言葉を掛けると口を動かして応えた。
○ 光を楽しめる環境設定の工夫 ・ ライトは天井や壁にも反射し色や光り方の変化を楽しめるものを選ぶ。(ディスコライト) ・ ライトを消し、明暗の変化を感じる時間も設定し気持ちを表情や身体の動きで表せるようにする。		・ 光の動きを目で追い穏やかな笑顔を見せた。首を動かし見回すこともあった。 ・ ライトを消すと「あれっ」という表情をし、目を動かし光を探していた。ライトが点灯するとにこっと笑いうれしそうにしていた。
＜エピソード記録の考察から＞		
○見通しや安心感につながる (学びの実感) 繰り返しの取組→学習場所、学習の流れを固定し積み重ねるとわくわくしたような笑顔の表情が見られるようになった。自分のやろうとしていることやっていることが分かってきたと思われる。E にとっての「分かる」を準備することが E の分かって取り組む姿 (学びの実感) につながるのではない。		
○達成感につながる称賛 (即時評価) のタイミング→スイッチで応える、自分で緊張を緩める、自分の気持ちを表す等の主体的な取組が見られた時は称賛 (即時評価) した。表情や動きから気持ちを読み取って E にフィードバックし、共有することで生徒の表現機会が増えたり楽しさの余韻に浸ったりする姿 (達成感) につながっていくのではない。		



【ボールスライダーで
ゆらゆらタイム】

【ボールスライダーで
ゆらゆらタイム】

＜まとめ＞（授業研究協議及び授業づくり検討会Ⅷより）

＜成果1＞期待する姿、予想される姿をより具体的に示した評価 ・チームによる丁寧な実態把握と生徒理解から作成した学習評価記録用紙の活用 ・見通しや安心感につながる姿（学びを実感する姿）の確認と評価基準の検討
＜成果2＞達成感につながるエピソード記録等による思いの読み取り ・行為や表情の変化を見逃さないための記録（VTRによる行動観察、エピソード記録）の蓄積 ・満足感、やりきった感、心の安定等を生む十分な活動時間の設定
＜課題＞対話的な学びにつなげる教師の思いの読み取り方の再考 ・思いを読み取る、待つ、反応を受け止めるための教師の働き掛けと寄り添い方 ・気持ちの共有やフィードバックをして終わりではなく、Eの受け止めまでの見届け

＜卒業後に向けて＞

卒業後は、病棟の療育活動に参加していくことになる。学校では、教師が個別に関ることが多かったが、病棟では、看護師や保育士が個別に関わってくれる機会が少なくなる。E自身が周囲からの働き掛けを受け止め、受け入れ、思いを表現していくことが豊かな療養生活につながると考える。

7 まとめ

映像記録で共有する客観的な評価

アセスメントチェックリストや自立活動の流れ図を基に、担当だけではなく多角的な視点から抽出生徒を見つめ、映像記録で検証を積み重ねてきたことで、より微細な表情や身体の動き、つぶやきといったものを教師が読み取り、より客観的な評価として活用することができた。

そして、映像記録を基にねらいや指導内容の妥当性を検証し授業改善を図ったことで、児童生徒が学びを実感し達成感を表している姿をチームで共有することができた。特に、グループ学習で情報共有しながら題材構成を検討していくうえでは、有効であった。

評価のポイントが一目で分かる学習評価記録用紙

チームでの丁寧な児童生徒の実態把握や指導目標等の検討を重ねていく中で、児童生徒への理解がより深まり、学習評価基準をより具体化することができた。それらを達成させるための手立てを明確にして目指す達成感を表す姿を引き出すことができた。

略案と本時のねらいに対する評価基準（４段階）、生徒の様子、改善点等を一目で見て分かるように学習評価記録用紙の内容を作成し実際に積み重ねたことで、生徒の変容となる手掛かりに気付きやすくなり、客観的な記録としても活用できた。日々の授業の評価としても活用しやすいように、様式の検討は継続して行っていく。

思考のツールとしてのエピソード記録の活用

学習評価記録用紙や日々の記録から変容の手掛かりを見付け、エピソード記録で考察を行った。意見を出し合い、児童生徒の気持ちに寄り添い、思いを読み取ろうとする教師側の思考のツールとして有効だった。

その反面、今年度初めての取り組んでみて、記入のポイントがつかめず悩んだ職員も多かった。児童生徒の変容だけでなく、日々の些細な出来事に対して「教師がこう読み取り、こう対応したからこうなったが、それはこんな意味があるのではないか」という深い考察ができるまでのスキルを共有していくことが必要だった。次年度は映像記録とともに検証場面等で継続して使い、有効なツールとして活用できるようにしていきたい。

8 次年度に向けての提言

児童生徒一人一人にとって学びを実感できるための学習評価の在り方

児童生徒が自身の頑張りや課題の達成を実感する多くは、タイミングよく周囲に認められたとき（即時評価）であった。また、より多くの集団の中で認められる機会があると、強く達成感を感じる児童生徒もいた。活動内容が「分かり」周囲に認められ、満足感をもつことは次時への意欲の高まりにつながっていく。児童生徒一人一人にとって分かりやすく実感がもてる学習評価の在り方をチームで確認し、積み重ねていくことが必要である。

客観的評価のためのツールの充実

学習評価記録用紙やエピソード記録は、ねらいの妥当性や手立ての有効性を検証していくうえで映像記録とともに継続して活用していく。さらに、児童生徒や指導形態によって活用しやすい様式になるよう、チームで改善を図っていきたい。